

社会福祉法人・学校法人 イエス団



イエス団報

Jesus band news

2013/12/24

16

再刊 16 号

- 「神戸市立医療センター中央市民病院
院内保育所運営委託業務」受託決定
- 研修報告
新任職員研修会
ブラッシュアップ研修会
リーダーシップ養成研修会
1泊施設長研修会
参加者の感想
- イエス団の輪っ
馬場一郎さん 近藤和美さん
山口沙佳江さん 関紀美子さん
武市奈美さん・石垣美穂さん
- 施設紹介
甲子園二葉幼稚園
遊隣・ゆうりん・シサム・あいりん
- トピックス
児童発達支援 くっく
- J.B.Fellows 活動報告
四国ブロック 大阪ブロック
京都ブロック 兵庫ブロック
- 表紙写真の解説
- 編集後記

発行：2013年12月24日

発行者：黒田 道郎

編集・発行：

社会福祉法人・学校法人 イエス団

〒651-0076

兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20

TEL：078-221-9565

FAX：078-221-9566

<http://www.jesusband.jp>

mail to : honbu@jesusband.jp



神戸市立医療センター中央市民病院 院内保育所運営委託業務 受託決定

神戸市立医療センター中央市民病院の院内保育所（杉の子保育園）運営委託公募が、9月・10月に行われました。入札、プレゼン、ヒヤリング等を経て、私たち社会福祉法人イエス団の受託が決定しました。これまで、たくさんの応援をいただき、ありがとうございました。

イエス団「杉の子保育園」の今回の公募における保育運営のコンセプトは、「子どもよし・保護者よし・病院よしの三方よし！～みんなに喜ばれる質の高い院内保育園～」としました。



園庭で土あそび

神戸市の基幹病院として中央市民病院は、救急医療・高度医療を含めた様々なニーズに応える重要な働きを担っています。多忙な中で頑張っているお母さん・お父さんたちが安心して仕事に取り組むことが出来るように、子育てのサポートを今後もしっかりと行います。私たちは1985年から院内保育所を受託していますが、これまでの保育運営は、保護者やOBの方たちの応援、病院の支え抜きには考えられません。今後も「院内保育園があって良かった」と多くの方に喜ばれる園でありたいと考えています。



保育室



大好きな先生と

社会経済情勢の著しい変化に伴い、保育園への期待が非常に高まっている今日、とりわけ院内保育園は、事業所内保育所と並び、その数が年々増加しています。「待機児童解消加速度プラン」に事業所内保育施設の支援が項目としてありますが、今後も新たな企業が参入し展開してくるでしょう。保育ニーズが拡大、多様化する中、子どもが健やかに育つことを一番に置き、私たちはこれからも杉の子保育園のバトンを継続させていきます。



園庭

注：神戸市立医療センター中央市民病院の病院内にある「杉の子保育園」は、イエス団唯一の院内保育所として1985年より神戸市から委託を受けて事業を行ってまいりました。2009年から病院の運営が神戸市から地方独立行政法人に移行され、それに伴い今回初めて公募入札による運営受託を経験することになりました。

報告：杉の子保育園 園長 今村優二

研修会報告

研修会をふり返って

MS2009の実現、「私たちはどのような社会を作り出すのか」をテーマに研修を行いました。

新任研修会では、「イエス団で働くということ」、「私が今ここにいること」の意味を考える時を持ちました。

ブラッシュアップ研修会では、自分自身をふり返り、生かされている自分を再確認して、新たなミッションをもって、それぞれの職場に帰って行きました。

そして、リーダーシップ養成研修会では、昨年に引き続き東九条でのフィールドワークを通して、「私たちイエス団の職員としてのミッション、イエスに倣って生きることの意味」を深く考えることができました。

地域に出かけてみると、様々なことを感じる事ができました。どのような方々がそこに暮らし、何を求めておられるのか。そして、私たちにできることは何なのか。

私たち、企画委員会研修チームは、これらの研修会を通してたくさんの方々と出会い、共に学ぶ中から、今年も多くの気づきや感動を与えられました。何より、私たちにはこれだけ多くの仲間がいるということ。

これからも「今、イエス団の職員としてできること」～「私にできること」「私たちにできること」「それぞれの施設でできること」～を考え続けたいと思います。

参加して下さった皆さま、ありがとうございました。また是非お会いしましょうね。

＜フォローアップセッション日程＞

リーダーシップ養成研修会フォローアップセッション

2013年11月30日

ブラッシュアップ研修会フォローアップセッション

2014年2月22日

企画委員会 研修担当チーム チーフ
甲子園二葉幼稚園 園長 田村三佳子

新任職員研修会

2013年3月25日（月）～26日（火）

於：六甲山YMCA



参加者とともに

一泊新任職員研修会は、今年度も自然豊かな六甲山YMCAを会場として行われました。新任職員の参加が49名、スタッフ/フェローズ(先輩職員)を入れると総勢60名を超す研修会でした。



講師の川中大輔先生の説明に耳を傾ける新任職員

研修会の目的は、①“イエス団の理念を理解し職員としての使命を考える”、②“感じる、考える、気づく、伝える、聴く、分かち合うことの大切さを学ぶ”、③“新しい職場に入っていく準備をする”の3点です。

開会礼拝での平田義常務理事からの奨励『イエスに倣って生きる』は、この研修会のテーマでもありました。

「人が幸せになるためにどのような社会を作っていくのか」、「命がキラキラ輝くために何をしたらよいのか」と語る常務理事。イエス団で働くことは、人を大切にすることであり、誰かのために何かできることはないかと考え実践していくことであることを、新任職員としてしっかり受け止めてくれていたようです。



グループワークの一コマ

講師は、シチズンシップ共育企画代表である川中大輔先生でした。ワークを進めながら、参加者はそれぞれ、自分のことを伝える・人に話を聞いてもらえる大切さを感じ取りました。そして、他者と関わる体験を重ねながら自分自身に気づき、さらにこれからの“わたしのミッション”を作り上げていく作業まで進めることができた、学びの深い研修会でした。



今回の「キリスト教と私～聖書朗読とお話し～」は、本部事務局 真下謙さん、平田義常務理事、聖浄保育園の北野由香さんが担当しました。フェローズは、昨年度の6名から8名に増え、また様々な職種のメンバーが加わることができ、新任研修会の内容のみならず、その意義をますます深めることができました。



自らのミッションを宣言し理事長から辞令を受ける

研修会の最後は、黒田道郎理事長から奨励、辞令交付を受け、一人ひとりが作成した「私のミッションステートメント2013」を読み上げました。選ばれ導かれているからこそ、今ここにいることを、それぞれが感じた新任職員研修会でした。

報告：企画委員会 研修担当チーム
杉の子保育園 園長 今村優二

ブラッシュアップ研修会

2013 年 6 月 14 日（金）～15 日（土）
於：六甲山 Y M C A



参加者集合写真

2013 年のブラッシュアップ研修会は、6 月 14 日（金）、15 日（土）の 2 日間、六甲山 Y M C A で行われました。参加者 24 名、講師は、川中大輔氏（シチズンシップ共育企画代表）によって行われました。

目的は——、

- ①今の自分を見つめ、これからの課題を探る。
- ②現場での体験を出し合い、仲間と共有する。
- ③「イエス団で働くこと」の意味を理解し、深める。です。

六甲の木々の緑に囲まれて、小鳥のさえずりも聞こえる豊かな自然の中での研修会は、日常の仕事の場所から離れてじっくりと自分を見つめなおす良い機会になったのだと思います。



グリーンチャペルでの礼拝

開会礼拝では、黒田道郎理事長の『体の部分として』という題でメッセージをいただき、イエスに連なるわたしたちひとりひとり仲間である、という事を再確認しました。

次に 4 つのグループに分かれて、講師によるそれぞれの課題についてグループの方たちが語り合い進みました。話す中で、一人ひとりの心が少しずつ開放されていったのではないのでしょうか。



グループディスカッションの一コマ

懇親会では、昨年に続き、「わたしの施設のハッピーニュース」を絵や写真によって紹介され、各施設の楽しいニュースに、驚きと感動で拍手が湧きおこりました。また、美味しいお食事とお茶ケーキをいただきながら笑いあいの楽しい懇親のひとときとなりました。



わたしの施設のハッピーニュース

また、「私の仕事とキリスト教」のセッションでは、スタッフ職員の経験談を交えながらの対談の形で進みました。参加者は、自分と照らし合わせ聴くことができ、心に響くものがあつたのではないのでしょうか。



2 日目の最終には、それぞれのセッションを総合的に踏まえて、自分のミッションステートメントを作成したものを発表し、決意を新たにしました。



閉会礼拝では、平田義常務理事の『イエスに倣って生きる』についてメッセージをいただき、法人の柱となる理念、ミッションステートメント 2009 の実践する大切さを学びました。

川中先生より戴いたメッセージで心に残るメッセージがありました。「自分の思いを声に出して言いましょう。届ける相手がいます。その人の立場にたって伝えましょう。『わかったよ』という思いを持って。」

仕事に励む中で、様々な問題に直面します。しかし、悩みは自分だけではない、神様につながる仲間がいるという事を忘れないで、より良い信頼関係を築きながら前に向かって進んでいってほしいと願います。

報告：企画委員会 研修担当チーム
くずは光の子保育園 園長 柴田弘子

リーダーシップ養成研修会

2013 年 8 月 29 日（木）～8 月 31 日（土）

座学：エルイン京都会議室、京都テルサ視聴覚研修室
フィールドワーク：希望の家カトリック保育園
地域福祉センター希望の家
京都コリアン生活センター「エルファ」
東九条まちづくりサポートセンター「まめもやし」



東九条地域の現状をお聞きする

リーダーシップ養成研修会は昨年と同様、イエス団のMS2009にある「社会をつくりだすリーダーシップ」をテーマとして、「MS2009の実現に向けて必要なリーダーシップの能力を高める」というねらいを基に、京都駅前のホテルエルイン京都での座学と、京都東九条でのフィールドワークの研修を2泊3日で行いました。

開会礼拝では平田義常務理事より「社会をつくりだす」をテーマに奨励していただきました。

そして2日目のフィールドワークの事前学習として、京都ブロック長で桃陵乳児保育園の宇野豊園長よりスライドを通して、京都東九条地域の歴史と概要、宇野園長がイエス団にかかわる前に、東九条を拠点として活動され、この地域に在住されている在日韓国・朝鮮人の方々との“つながり”を、又共に寄り添い、共に生き共に育ち合い、共に行政と戦ってこられたご自身の歩みについて語ってくださいました。

2日目は、初日にスライドを通して見た東松ノ木町40番地を実際に歩き、環境の変化や街並みにある匂い、色、音、風を、五感を通して感じました。そして参加者16名が3つのグループに分かれて、「希望の家カトリック保育園」、「地域福祉センター希望の家」、「京都コリアン生活センター エルファ」、「東九条まちづくりサポートセンター（愛称“まめもやし”）」へ見学、交流をさせていただきました。

その一つ「エルファ」での交流では、交わりの中でオモニ、アボジの手を握り締め、触れ合うことによって互いのこころが通じ合ったように感じました。

これらのフィールドワークを踏まえて、シチズンシップ共育企画代表の川中大輔先生によるグループワーク中心の7つのセッションが行われました。

内容は、「問題意識で出会う」、「社会をつくりだすリーダーシップ」、「フィールドでの気づき」、「私たちはどこで求められているか」、「現場に向かって」等などのセッションとなり、自分自身の学びを深めたうえで、“私たちは今どのような社会に生きているのか”、“今何を求められているのか”などを地域社会の中で探り出します。

そして今後各施設の中で、施設長や施設職員、利用者の

方々と共に、「新たな社会の創造」へとつながる「MS2009実践のためのアクションプラン」作成へと発展していくことと思います。

3日間の研修の中身にあった、“触れ合い”、“気づき”、“分かち合い”が新しい社会の創造へとつながることを祈ります。

報告：企画委員会 研修担当チーム
ぶどうの木保育園 園長 木村 耕

2013 年度 1 泊施設長研修会

2013 年 7 月 26 日（金）・27 日（土）

1 日目場所：大阪市 四貫島友隣館、天使保育園、
天使ベビーセンター、天使虹の園
2 日目場所：大阪市 ガーデン天使

本年度の1泊施設長研修会は、大阪市の四貫島友隣館を中心としたセツルメント運動に学び、イエス団の地域福祉のあり方について学ぶことを目的として実施されました。

開会礼拝

大阪四貫島教会において黒田嗣郎牧師から「神と隣人を愛す」というテーマで説教をいただきました。



大阪四貫島教会にて

天使保育園、天使ベビーセンター、天使虹の園 見学

グループに分かれて、教会と建物を同じくする天使保育園と天使ベビーセンター、そして500mほど離れた天使虹の園の見学を行いました。炎天下、てっきり徒歩で向かうのだと思っていましたが、外に出ると目印のリボンが結ばれた自転車がずらり。職員の皆さんの自転車を、我々のために一人1台準備してくださっていました。そのため天使虹の園への往復は、とても快適に移動することができました。聞けば職員のほとんどが自転車通勤とのこと。そこから園の周辺に職員が居住され、地域の園として支えておられることがわかりました。



自転車での移動



天使保育園の中庭

永岡正己先生の講演

施設見学後、永岡正己先生（日本福祉大学社会福祉学部教授）より「四貫島友隣館と大阪の地域福祉の歴史ーキリスト教、セツルメント、賀川豊彦ー」と題して、講演いただきました。

まず大阪での社会事業成立とセツルメント運動の歴史的な展開の説明がありました。大林宗嗣（「セツルメントの研究」）によると、セツルメントの必要条件の一つは「其のコミュニティーに定住又は仮住する」であり、地域に住み込み、地域の人との人格的な関係の中で、地域を作り上げるコミュニティーセンターとしての働きが求められていたということ。

また大阪での賀川豊彦の働きと四貫島セツルメントの特色は、①労働者伝道中心、②協同組合活動、③保育理念がしっかりしている、④イエスに倣った活動であり、特に④は他のセツルメントにはないものでした。神に仕える精神に基づくボランティアを組織したことが、その後色々な活動に発展し、広さと深さを持った働きにつながっていったそうです。

現在のセツルメントのほとんどが住み込みではなくなり、また行政の地域計画の受け皿として政策の流れに組み込まれているところが多くなっています。人とのつながりが薄くなり、孤立する人が増える現代社会において、イエス団には、イエスキリストの信仰に基づき、地域と共に生きる働きを行う中で、「ともに育ちあう」社会への変革を目指して地域活動に取り組んで欲しいというお話がありました。



永岡正己先生による講演

ガーデン天使見学と分団協議

2日目はガーデン天使に場所を移し、まず施設見学を行いました。

その後、4つのグループに分かれて、前日の永岡先生の講演を振り返りつつ、各施設における地域福祉の実践について共有を行いました。各施設の取り組みも地域の事情によって内容は多岐に渡り、また日が浅いものから伝統を感じるものまで様々です。その中で施設長と職員が情報を共有し、少しずつ積み重ねていくことで地域の構造が見え連携ができるようになるという意見が出ていました。

最後のまとめとして平田義常務理事より、少しでも私たちが実践できること、発信ができることがないかを考え、うまくいなくても、まずは半歩でも1歩でも踏み出し、またその実践内容をお互いに共有していくことが大事であるというお話があり、1泊の研修会が締めくくられました。



ガーデン天使にて分団協議と共有の場

報告：イエス団本部事務局 好崎志保

1 泊施設長研修会を終えて

恒例の一泊施設長会を四貫島セツルメントで行いたいとのお話がありましたが、準備する時間が短かったため、当初はお断りしていました。しかし平田義常務理事から四貫島で学びたいとの強い希望があり、今回セツルメントや地域福祉について学ぶ機会を与えられました。

今回は施設見学と、地域福祉の講演・懇談を中心に進めて参りました。施設見学のほうは、4施設を25名が一度に見学しますので、小グループに分けて効率良く見学できるように工夫いたしました。また虹の園への移動は自転車での移動が一番効率的なので、自転車に乗ってもらいましたが、真夏の炎天下で自転車に乗せられ、参加者は汗だくになりながらもすがすがしい笑顔をされていました。

講演会は講師である永岡正己先生のほうから、地域福祉を考える上で重要なエッセンスが凝縮された講演をいただきました。セツルメント運動の歴史から入り、四貫島セツルメントの特徴と役割など、初めて聞く内容も多かったです。また、賀川精神を継ぐ者として、キリスト者としてどのように地域福祉を実践していくべきかについて、多くのヒントをいただいたように思います。

私が印象的だったのは「人と人との繋がりを深める。縦の繋がり、横の繋がりをどれだけ広げられ深められるかが、今後の地域福祉のポイントになってくる」ということです。確かに施設に関わる人たちとは、年数を重ねるごとに繋がりは深められますが、横との繋がりはもっと積極的に意識して働きかけないと広がらない、また地域福祉をするうえで必要不可欠な要素だと理解いたしました。

今回は四貫島が当番となり、特に目新しいものは何もなかったと思いますが、歴史に学び先駆者たちのセツルメント精神に触れる良い機会となったことと思います。多くの方々に支えられまた繋がりを深めながら、賀川先生が種を蒔かれたこの地で研修会ができたことを感謝いたします。

天使保育園 園長 嶋田良介

ブラッシュアップ研修会に参加して 「つながり」

ブラッシュアップ研修会に参加して、たくさんの仲間がいるということを感じ、安心して自分の思いを口に出すことができたように思います。

共感してもらったり、ときには聞き役になったり、悩みをみんなで考えたり…。

話し合いを重ねる中で、働く施設は違っても、同じ道を志す仲間なのだと強く感じられました。

特に刺激となったのは、私は幼稚園教諭ですが、数々のセッションを保育園や乳児院の保育士や調理師の方々と共に行うことができたことです。細かい業務内容は違っても、子どもたちに対する思い、また施設での役割についての迷いなど、皆お互いに考えている部分が同じだったため、それぞれの持ち味を出し合いながら、話し合いができたのだと思います。

この小グループに分かれて、話したり聞いたりしている自分と、自分にはなかった新しい観点で話したり考えたりする仲間の姿を見て、保育への思いの再確認はもちろんのこと、それぞれの組織で自分にできること、自分にしかできないことを見つめるきっかけとなりました。

それぞれが持っているよいものを十分に活かして、各施設に持ち帰ることができたと思います。

甲子園二葉幼稚園 島田佳奈



リーダーシップ養成研修会に参加して 「私にとって隣人は誰だろう？」

「リーダーシップ養成研修会」ということで、“この私が？”とドキドキしながら会場に向かいました。なんとなく周りの参加者の方々も緊張感が漂っていたように思います。

ところが、いざ研修会が始まってみると、その思いを打ち破るほどの衝撃は私は受けました。

開会礼拝で“良きサマリヤ人の話”を通してメッセージをいただき、“私にとって隣人は誰だろう？”と、その後の研修の中でも度々考える時を与えられ、今なお続いています。

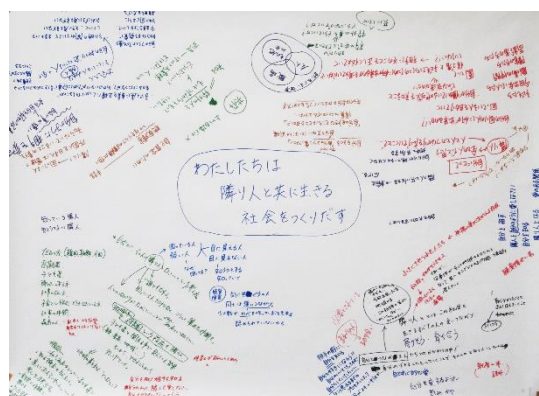
京都東九条での出来事は、今まで全く知らなかったことなので、かなりのショックを受けると同時に在日の方々のこれまでの思いを考えると、知らないでいたことの罪深さを覚えました。これはお話だけではなく実習にも行かせていただいたことでより強く感じたと思います。

グループでの話し合い中心のセッションでは互いに違った職種のメンバーにも関わらず活発なやりとりができ、充実していたと思います。先日のフォローアップ研修会においても再会を喜び、また“あの時”と同じように思いを出し合い、共有することができました。

今の職場でどんなことができるのか？私はどんな役割を果たすべきなのか？を問いつつアクションプラン実現に向けて、一緒に学んだ仲間のことを祈りつつ動き出しています。

様々な方々との出会いも含めて、実り豊かな研修会に参加させていただき、ありがとうございました。

甲子園二葉幼稚園 高田 明子



イエス団の 輪っ

「イエス団の輪っ」と題しましてリレー形式での投稿。理事・評議員さんからおひと方、今回から一般職員は、各ブロックよりおひと方ずつ寄稿していただきます。

4 回目は、理事の山口政紀さんと、本部事務局の真下謙さんからのご紹介で、理事で友愛幼稚園園長の馬場一郎さん、四国ブロック：近藤和美さん（光の子保育園）大阪ブロック：山口沙佳江さん（天使保育園）兵庫ブロック：関紀美子さん（友愛幼稚園）京都ブロック：武市奈美・石垣美穂（桃陵乳児保育園・桃陵保育園）です。

「イエス団と私」



社会福祉法人イエス団理事
友愛幼稚園 園長 馬場一郎

イエス団報の「イエス団の輪」を山口理事からバトンを受け、書かせていただきます。実は私は 2003 年 4 月にイエス団に入職し、まだ 10 年の経験しかありません。この原稿の「イエス団と私」というテーマは、私にとってはなかなか難しく、少し自分自身の履歴をたどって書かせていただきたいと思います。

私は大学を出て銀行に勤めていました。いつからか、お金中心の仕事に疑問を持ち始め 2 年で退職し、その後たまたま見た新聞の求人募集で、神戸 YMCA を受け、採用していただきました。中途採用でしかも勤務地は小豆島にある余島野外活動センターでした。まったく経験がない仕事と島の生活は私にとって大きな転機になりました。

キリスト教や組織の理念に触れていくにしたがって、自分が変えられていく実感を持ち、何人かの先輩にも大いに感化を受け、いろいろな経験をさせてもらいました。

在職中にスタッフに対するアンケートがあり、「何を大切に仕事をしているか」という質問に対し、「いと小さきものに仕えるために」と書いたことを覚えています。銀行とはまったく違う目的を持ち、働けることがうれしかったのかもしれませんが。毎日朝から夜遅くまで働いて、一生懸命がんばっていました。

19 年間働かせていただいた YMCA を辞し、縁があって、

イエス団に奉職させていただきました。

新任研修で読んだ「イエス団憲章」に「最微者（いと小さき者）に仕えるために」のフレーズを見つけ意を強くし、ここで自分も変わらねばならないという思いを持って働き始めました。本部に 4 年勤め、村山先生と仕事をさせてもらいました。当時村山先生は法人の常務理事であり、賀川記念館、友愛幼稚園の施設長で多くの役割を持たれていました。一緒に仕事をさせてもらい、先生の考え方、ものをみる視点を学ばせてもらった気がします。社会福祉自体しっかり勉強したことも経験もない私ですが、本部で仕事をするのは大変なことでしたが、いつも村山先生に報告し、意見を伺い、育てていただいたと思っています。

イエス団で仕事をしていく中でいつも「何が正しいのか」を問いかけます。正しいことは時代と共に変わるのでしょうけれど、その時の課題に対して正しいことは何かをいつも問いかけながら仕事をしてきたように思います。

今働かせてもらっている友愛幼稚園の保育目標（村山先生作成）は、「共に生きる工夫のできる子ども」～やさしい心、ただしい心、つらぬく心～です。

「やさしい心」を持つ土台に「ただしい心」がないといけない、「ただしい心」は「つらぬく（強い）心」がないと芯がぶれます。「ただしい心」も「つらぬく心」も「やさしい心」を持つために、持たなければいけない心だと、私は思うのです。何が正しいかを考えることは優しさを持つために大切なことではないかと。そしてそのことを考えながら、「変わることができる自分」と「やさしい心」を持って、これからもイエス団の一員として仕事をしていきたいと思っています。

次は賀川記念館、杉の子保育園で長く勤められ、現在社会福祉法人の理事をされている祐村明さんにバトンを渡したいと思います。どうぞよろしくお願いします。



「30年目に思うこと」

四国ブロック

光の子保育園 近藤和美

私は今年勤務 30 年を迎えます。自分でもびっくりする年数です。それは、軽いひとことで言い表せば“ラッキー”。就職・結婚・出産・子育てを保育園生活と共に成してきた、すべてをひっくるめて、幸運だったと感じています。

今回、イエス団に連なる 1 人としての思いを原稿に、とのことで依頼を受けました。そこでイエス団との関わりは？と聞かれると、それは三人の園長先生の元で働いてきたことだと思うのです。初代園長の保郎先生は、牧師との兼務でとてもお忙しいご様子でした。恰幅の良いスーツ姿で出掛けて行くのを子ども達と見送ることが多かったのと、優しい笑顔が印象に残っています。

二代目の絢先生は、元気で明るく太陽の様な存在。何でもできて、何事にも自らがまず全力投球する姿に圧倒されっぱなしでした。現在もお元気で、ご趣味の絵画や手芸の作品からは絢先生の女性らしさや優しさが伝わってきます。先生としても女性としても尊敬して、大好きです。三代目、現園長の信雄先生は保育士でもあり、数年間は同じ保育士として一緒に仕事をすることができました。気さくな雰囲気とやや年齢が近いこともあって、最初、甘く見ていた（失礼）のが間違いでした。子どもの見かた、気持ちの捉え方、保育のきめ細やかさ、面白さ…とにかく感性が鋭い。私は自分の至らなさに緊張と困惑もしました。「施設は建物でなく、そこに働く人である」と信雄先生はおっしゃいます。それならば、私は三人の園長先生と過ごしてきて、その尊敬するところを少しでも受け継いで自分に取り入れられただろうか。自分に活かされていると思うことができれば申し訳なく、30 年勤めた価値はそこにあると思いたいです。

光の子には私が先輩と呼ぶ事のできる先生が 4 人もいます。相談したり、教えてもらったり、話して笑ったり、時にはお互いの考えや意見を真剣に語り合ったりできる大切な存在です。もちろん若い先生（ちょっと若いも含む）もたくさんいて、私よりもしっかりした意見を持っていたりします。保育内容を細かくまじめに考えたり、楽しいパフォーマンスで和ませてもらったり、いろんな刺激もあったり、たくさん助けてもらったりと、みんな頼りになる後輩たちです。こんな個性豊かな職場の仲間たちや、たくさん子どもたちと過ごせる日々を、毎日

同じように光の子に通えることを、幸せだなあと、ここ数年実感しています。

そんな私が今大切にしているのは“柔軟である”という事です。子どもや保護者を見る目、人に対して、日々において。素直に！というのは難しいですが、“柔軟さ”を持っている自分でありたいと思います。そして私はまだしばらく出来る限り現役を続け、子どもたちに素直さを分けてもらいながら、「かずみ先生、若いなあ」と言われる自分を維持していきたいと思っています。

さて、この「イエス団の輪」はブロック内の施設を指名してリレーしていくという企画ですので、**次号は豊島神愛館の先生にお願いしたいと思います。**

「つながり」



大阪ブロック

天使保育園 山口沙佳江

初めまして。大阪に在ります天使保育園の給食室を担当しています、山口沙佳江（さかえ）と申します。栄養士としてここで 7 年目を迎えました。住まいから保育園までは自転車で（国道 43 号線をつっ走れば）およそ 13 分。歴史ある安治川の隧道を使用すると（朝は大変込み合うため）およそ 20 分かかります。どちらにせよ通勤にあまり時間はかかりません。実家からだと自転車で 5 分ですし（笑）。この地域に生まれ、天使保育園北分園（現在の天使虹の園）を卒園し、四貫島友隣館（学童保育）に通い、諸々を経て現在この地域で生きています。

わたしとキリスト教（イエス団）との出会いは、両親にさかのぼります。両親ともに大阪四貫島教会に通っており、結果（？）私は生まれました。小さい頃は日曜日に教会へ行くものでしたが、学生時代には部活動がメインになり、次第に足は遠のいて行きました。その後、再び教会へ私を向かわせてくれたのはオルガンです。教会で奏楽を担当されていた方に、小・中学生の頃オルガンとピアノを習いました。子ども讃美歌を教えていただいて、中学生の時に GS の礼拝で奏楽を担当する

ようになりました。その後進学するにつれ教会を離れ、専門学校を卒業して実家に戻ってきた頃には、教会へ行くのは年に数回になっていました。その頃、オルガンの先生から「月に1回でも大人の礼拝で弾いてくれたら助かるんだけど。」と話があり、先生がお年を召された事に気づきました。私でも助けになるのならと、子ども讃美歌より難しい大人の讃美歌の練習を始め、また教会へ通うようになりました（教会のオルガンで練習するのが楽しくて）。そうして大人の礼拝に出席するようになり、小川居牧師の話を聞くようになりました。衝撃でした！居先生のお話は、とにかく声が体に響いて入り込んで来ました。実際には保育園の時に園児と園長先生として出会ってはいるのですが、その頃とはまた違う新たな出会いでした。教会から離れていたころ、母が居先生のお話を聞きにおいでと言っていたのはこの事だろうと思ったのを覚えています。しばらくして私は居牧師を通して洗礼を授かりました。

それから数年が経ち、私は栄養士として夜間保育園に勤めていたのですが、縁あって天使保育園に勤めることになりました。四貫島セツルメント・賀川豊彦（敬称略）の精神を知り、ただただ学ぶばかりです。勤め始めた頃は子どもたちと楽しく触れ合い、給食を作るという日々でしたが、年数を重ねるにつれ園長・主任始め、諸先輩方・同輩・後輩にたくさんの手を差し伸べられ、私も最微者（いとちいさきもの）の一人として受け入れられていることを実感する毎日を迎えています。職員も子どもも多く、たくさんの人と触れ合う機会に恵まれていると同時に、「違いを認め合う」ことの難しさを経験しますが、その中であって神様から与えられたこの日々、特に子どもたちと共にある生活に感謝し、天使保育園・大阪四貫島教会とそこにつながる人々と共に歩んでいきたいと思っています。

さて、今回の「イエス団の輪」は、聖浄保育園にお願いしたいと思います。



「かみさまからの おくりもの」



兵庫ブロック

友愛幼稚園 関紀美子

友愛幼稚園には、2001年6月より働かせていただくようになりました。まさかこんなに長く働くことになることは、思いませんでした。

随分前の話になりますが、子どもの時母が幼稚園に入園させようと選んだのが石井幼稚園（日本キリスト教団神戸教会付属）でした。クリスチャンホームではないし、同じ距離には公立の幼稚園もあったのですが、4歳児から入園し、2年間通いました。そこがわたしにとってキリスト教との出会いでした。

卒園した後も恩師である故飛田溢子先生とは、つながりがあり頌栄の受験をすすめられ保育の道に進む事になりました。

卒園した石井幼稚園に就職し5年間勤めました。その時にいい先輩に恵まれ「保育」という事を考えたり、悩んだり、楽しんだりという経験をする事ができました。今も保育に対する想いはその時に作られたと思います。

長い間、保育の仕事から離れていましたが、子育てをしていくうちにまた保育に携われたらうれしいな…と思っている時お誘いを頂き、おそろおそろ旧園舎の友愛にやってきました。そこでも尊敬できる先輩方や同僚と出会い、長いブランクがあったにもかかわらず色々教えていただきました。記念館の建て替えという大きな出来事にも関わることができました。絵本「かみさまからのおくりもの」（ひぐちみちこ作）で、「あかちゃんがうまれるとき、かみさまはひとりひとりにおくりものをくさいます。」と書かれています。わたしは「ちからもち」と「よくわらう」をいただいたようです。2回にわたる引っ越しでも「ちからもち」は発揮できたと思っています。そういえば若い時、働いていた石井幼稚園でも園舎の建て替えの経験をしました。

また、恩師である故飛田溢子先生は、学生の時友愛に実習に来ておられたと聞いています。色々考えています

と、今友愛にいる事は、かみさまからわたしへのおくりものだったのかなと。しっかり働きなさい！と道をつけていただいていたのかなと感じるこの頃です。

イエス団の輪の中に入れて頂きよくわらい、ちからもちでこれからもつながっていききたいと思います。JBフェローズや主任会でイエス団の横のつながりが目に見えてきました。この出会いや、つながりを大切にひろげておおきな輪になれたらいいなあと思います。

さて、今回の「イエス団の輪」は、一麦保育園の安芸先生にお願いしたいと思います。



「同期です」

京都ブロック

桃陵乳児保育園・桃陵保育園 武市奈美・石垣美穂

私たちは、京都市伏見区の桃陵乳児保育園・桃陵保育園で24年勤めている保育士2人です。私たちにとっても、この保育園でこんなに長く勤めることは夢にも思っていませんでした。私たち2人は同じ専門学校で出会い、縁があり、同じ職場に就職することができ、毎日子どもたちと精一杯すごしているうちに、いつのまにかこんなにも年月が過ぎていました。

ここまで勤められたのは、園には同年代の仲間も多く、なんでも言い合える関係があったからだと思います。先輩たちは、厳しいけれど、実は愛情いっぱい優しい人ばかりで、何でも相談に乗ってもらい、アドバイスをもらえるので、いろいろな面で、子育てをしながらも働きやすい職場だと思います。30年以上のベテランも多いこの園…。昔は保育の話をもっと熱く語っていた先輩や私たちも最近は、子どもや保護者のことはもちろんですが、“体のどこが悪い……”とか、“どこの医者がいいか……”という話の内容が多くなってきているのが笑える今日この頃です。

私たち2人は、2年前からイエス団のJBF京都ブロックの委員をさせていただくようになりました。JBFの活動がどんなものか知らないままのスタートでしたが、代表の「ゆうりん」の森拓平さんがいろいろなことをすすめてくださって、今、ようやく軌道にのり始めているところです。私たちは京都ブロックでの活動としての「発達しょうがいについての勉強会」という取り組みにも参加させてもらっています。

今までは、他園との交流などあまりなかったので、JBFの仲間である他園のことを知る機会となり、うれしく思っています。子どもたち同士の他園との交流は以前からありましたが、見学や公開保育では分からない細かなところを知ったり、情報交換ができるので、良い機会だと思っています。

年々多様化していくニーズにどう応えていくのか…。どういう関係の中で、どう伝えていくのか…。どこの園でも同じような悩みをかかえているんだなと実感することが多いです。日々の保育の中で、考えていけないといけないことが多くありますが、思っていることや悩みを相談したり、互いに情報交換ができる場として、これから先もJBFの活動が続いていってくれればうれしいです。**次号はぶどうの木保育園さん、よろしくお願いします。**



『イエス団の輪っ』について お知らせとお願い

- 今回のご寄稿ありがとうございました。
次号は、理事の祐村明先生
四国ブロックからは豊島神愛館
大阪ブロックは聖浄保育園
兵庫ブロックは一麦保育園の安芸先生
京都ブロックはぶどうの木保育園のご指名です。改めてご寄稿をお願いいたしますが、その節はどうぞよろしくお願いします。

(イエス団報編集委員会)

施設紹介



学校法人イエス団

甲子園二葉幼稚園

阪神甲子園駅から北に向かって 10 分ほど歩いた所に、甲子園二葉幼稚園は位置します。

阪神甲子園球場がすぐ近くにあるため、野球開催日には多くの阪神ファンで賑わいます。

西宮市では、一番初めの私立幼稚園として 1923 年 12 月 2 日に認可され、スタートしました。

園舎



その後、1937 年に、廃園の危機にさらされた際、賀川豊彦の援助によって、存続することができた幼稚園は、以来イエス団の 1 施設として歩むこととなりました。

初代理事長 賀川豊彦、園長 吉田幸。同時に吉田源治郎牧師により、日曜礼拝が始められ、今津二葉教会（現在の甲子園二葉教会）が設立されました。

しかし敗戦直前の 1945 年 8 月、西宮最後の空襲により園舎は焼失、休園せざるをえなくなりました。この間、吉田源治郎・幸夫妻は、市内の高木地区にあった一麦寮（1932 年賀川豊彦により創設）に移り、隣接の一麦保育園の事業をたすけると共に、1947 年 3 月には、西宮一麦教会を創設しました。以来、両教会は、姉妹教会として現在も交流を続けています。

1979 年には、学校法人イエス団立となり、1994 年には、現在の地、西宮市甲子園三保町に新築移転。新たな歩みが始まりました。

一麦保育園との交流



さて、「二葉の保育」を特徴づけるものとして、その中心は基督教保育であり、戦前、戦後と変わらず、大切に受け継がれてきました。

「キリストの精神に基づき、私たち一人一人は、神さまから愛されたかけがえない存在であるということを伝え、自分を信じ、人を愛する心を育む」という方針のもと子ども一人一人を大切にする保育を行ってきました。

次いで 1988 年には、コンスタンス・カミイ博士との出会いがありました。「ピアジェの構成論」、そして「子ども中心の保育」。これまでの保育に、しっかりとした理論が加わりました。子ども中心の保育とは、その子が頭の中で考えていることに沿って援助するということ。

私たち保育者はあくまでも援助するものであり、決めるのは子ども自身であるということ。



教育の目標は「自律」。

「自律」とは、様々な要因を考慮に入れて自分自身で決めること。「自律」の反対は「他律」。「他

律」とは他人にコントロールされるということです。「一人ひとりを大切にすること、ということなのか」、私たちは学びながら日々、保育内容の充実に励む努力をしています。

現在、園児数 126 名。教職員は 13 名。「子どもも大人もいきいき笑顔の幼稚園」をモットーに、子どもも、保護者も、先生も笑顔でいることができたと願っています。

毎年 11 月には、教会と共に地域の方々をお招きし、子どもも大人も楽しむ「二葉フェスティバル」が開催されます。ここでも保護者の方々は、与えられた賜物を発揮し、いきいきと働いてくださっています。

こうして神さまによって蔭かれ、吉田源治郎・幸夫妻に育てられた二葉は、地域に喜ばれる園を目指して、祈りつつ今を歩んでいます。教会と共にこれからも。



データ

〒663-8163 兵庫県西宮市甲子園三保町 6 番 10 号

TEL : 0798-41-0278 FAX : 0798-45-0058

web : <http://futaba-k.jesusband.jp>

mail to : futaba-k@jesusband.jp

愛隣館研修センター

愛隣デイサービスセンター

向島障がい児・者地域生活支援センター『遊隣』

障がい児・者ホームヘルプ事業「ゆうりん」

重症心身障がい者通所「シサム」

京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」

「出会いと気づきの中で」

(平田義講演録より 辻早苗 記)

1979年、団地でのセツルメント事業を行う拠点として、通園施設の2階部分に、愛隣館研修センター（以下センター）が竣工。1984年に平田義が就任し、「向島差別と人権を考える会」を立ち上げるなど、地域の方々と様々な差別と人権に関する講演会、学習会などを企画、実施しました。

この活動を通して、市営住宅のバリアフリー住宅で自立生活されている、いわゆる重度の障がいがある柏木正行さんと出会ったことが、現在のセンターの始まりです。



柏木さんは、公的なサービスがない時代に、施設から出て地域で生活されるため、自ら介護者を集めて生活されていました。しかし、昼間の介護者がみつからず、独りきりでトイレも行けず、ご飯も食べられないという状態があり、どうしてもトイレに行きたい時にセンターに電話が入り、介助に出向く（当時、2階にあるセンターには鉄製の階段のみだった）という関係が始まりました。さらに、同じように生活されておられる方々との出会いが重なり、障がいのある方が地域の中で安心して暮らせるために、何が求められているのかを考え始めるようになりました。

また、障がい児の通園施設を卒業した子どもたちが、養護学校や育成学級の帰宅後、地域の学童保育や、児童館に入れてもらえないという状況もありました。

このよう状況の中、向島で障がいのある人たち、障がいのある子どもたち、またその家族のことに焦点を当てた活動の必要性を感じ、誕生したのが、愛隣デイサービスセンターです。

入浴サービスが始まったある日、福祉事務所ではなく、ヘルパーから連絡が入りました。「四肢機能に障がいのある方が、高齢のお母さんと一軒家の2階で生活されている。奥まった細い階段は、男の人二人で抱えて降ろせるぐらいの所。何とか外出できないか？入浴できないか？」と。後に、その方からは、「十何年ぶりに湯船に浸かった」と感謝の言葉をいただきました。この出会いでは、地域の中に様々

なニーズがあるにもかかわらず、情報が行き届かないために支援が受けられない人がいるということ、地域へ自分たちが打ってでていくことの必要性を教えてくださいました。

出会いが増え、十人十色のニーズに応えるために、デイサービスの一環を取り払い、誕生したのが「向島障がい児・者地域生活支援センター『遊隣』」でした（一部制度化され、障がい児・者ホームヘルプ事業「ゆうりん」に）。

『遊隣』でも大切な出会いがありました。いわゆる重症心身障がい児と言われる方々のうちで、医療的ケアが必要な方です。準備会をしている時に、「どんな障がいのある人でも受け入れると言うけれども、常時痰の吸引が必要な人でも受け入れてくれるのですか」という切実な質問に、痰の吸引が必要な方との出会いもなく、経験も無いながら、「その人にとって吸引が生活していく上で必要であるならば、させていただきます。」と受け入れることとなりました。

しかし、本当に安心して暮らせる場所、通所できる場所を考えた時、看護師が常駐しケアできる場所の必要性を感じ、誕生したのが、重症心身障がい者通所事業B型「シサム」です。（現在は重症心身障がい者通所「シサム」）



同時期には生活相談事業（現京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」）を委託され、さらに多くの方たちと出会うことになりました。

センターはこれからも出会いと気づきを繰り返しながら、「隣り人」を「愛し」、「その人らしく生きる」ことに寄り添い続ける場所でありたいと思っています。

データ

愛隣館研修センター

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151-34

TEL : 075-621-3849 FAX : 075-621-1579

web : <http://www.airinkan.net>

mail to : info@airinkan.net

トピックス

「児童発達支援 くっく」

の取り組みについて

「児童発達支援 くっく」は、2012年8月1日より賀川記念館3階の一室で活動をスタートし、2013年10月現在49名のお子さんにご参加いただいています。

活動をスタートするきっかけとなったのは、保育園や幼稚園に在籍するお子さんの中に、ことばの問題やお友だち同士でのコミュニケーションの未熟さ、行動面での落ち着きのなさ、些細なことでカッとしやすいなど、なんとなく気になる特性をもったお子さんの存在でした。このような特性をもつお子さんを対象に、集団や家庭での生活を今よりさらに快適に過ごすことと、小学校入学に向けての準備のために何かサポートをできないかということで活動がスタートしました。

くっくでは保育園や幼稚園に在籍するお子さんを対象とする「幼児クラス」と、幼稚園や保育園に入園する前のお子さんを対象とする「親子クラス」があります。

「幼児クラス」では、幼稚園や保育園の終了後に来所され、それぞれの課題に応じた6人程度の少人数でのクラス編成で、お友だちとのやりとりやコミュニケーション・運動遊びや製作活動などの手先を使った作業トレーニング・個別の学習課題・状況に応じたソーシャルスキルトレーニングなどの活動に取り組んでいます。

特に年齢の高いお子さんのクラスでは、課題解決の方法や状況に応じた適切な行動を伝えるなどの技法としてのソーシャルスキルを学ぶだけでなく、子ども同士での話し合いや課題解決の場面を多く作っています。

大人とのやりとりだけでなく、子ども同士のかかわりに重点を置き、お友だちとの会話や遊びのやりとりだけでなく、意見の調整や課題解決をお友だちと一緒に考えていくことを大きな目標としています。



ハロウィーンパーティーの様子

幼児クラスが少人数の子ども同士のグループであるのに対し、「親子クラス」では、親子での参加をお願い

しています。

親子での参加をお願いしている理由については、就園前のこの時期に安定した親子関係を築くことが、その後の子どもの成長にとってとても大切なことだと考えているからです。気になるお子さんを持たれる多くの保護者の方々からは、お子さんが小さい頃より「なんとなく気になる」という思いは持っておられたものの、「何をどのように関われば良いのかが分からない」とか、「一緒に楽しく遊びたい」という思いはあるものの、「何でどのように遊んだら良いのかが分からない」、「一緒に楽しく遊べる遊びが分からない」といった思いをよく耳にしてきました。そのため、親子で参加していただくことで、保護者の方がそれぞれのお子さんの楽しめる遊びや興味のある活動と一緒に楽しむことができるようになります。そして「もっと楽しみたい」という思いを強く持つことにより、子どもからの自発的な要求やコミュニケーションの開始が促され、コミュニケーションスキルの獲得や向上を図るという事を大きな目標としています。

また、くっくでの活動に参加している子ども達の中には、見通しの持ちにくい場面、特に新奇な場面が苦手なお子さんも多くいます。そのような場面に、いつも自分を見守ってくれている保護者と一緒に参加することで不安を軽減し、参加への意欲を高めるという事もメリットであると考えています。

児童発達支援 くっく 担当 石田 朋子

J.B. フェローズ活動報告

四国ブロック

今年の四国 J.B. フェローズの活動としてまず、「四国ブロック内のお互いの施設を知ろう!」と、6月に光の子保育園への施設見学を行いました。同じ、保育士でも保育園と乳児院、またそれぞれの保育園によって違いもあり、得るものがたくさんあったようです。

J.B. フェローズ=代表委員という認識が5施設の職員の中で強くあり、今回の施設見学では委員以外の職員が見学へ行けるようにと考えました。

委員以外の交流のあまり無い中、他の職員が参加することで、少しずつ皆がそれぞれ自分たちもフェローズの一員なんだ!という認識がどんどん広がって、深まっていけばと思います。

また10月には、坂出育愛館への施設見学を計画していましたが、坂出育愛館の発表や行事と重なり中止となってしまいました。しかし、施設見学を今年だけの活動として終わらずにまた、次へと繋げていければと考えています。

そして四国ブロックだけの活動の枠を超えた豊島3施設合同夏祭りが7月に開催されました!!!

今年の夏祭りは、豊島3施設以外の J.B. フェローズの方々のお力添えがあったからこそ、楽しく開催できたのだ

と考えています。夏祭りに様々な形で参加して頂き、本当に嬉しく思っています。



例年、お年寄りや子どもたちは参加するといっても、どちらかと言えば、観賞するほうがメインになってしまっていました。しかし今回は観賞もしつつ、一緒に出演することができ、たくさんの笑顔を見ることができました。それがほんとうに嬉しく思います。



豊島3施設の中での交流も数える程しかなく、今回の夏祭りを通して少し距離が縮まったように思います。この距離がまた離れないようにしたいです。

しかし、まだまだ改善しもっともっと楽しい夏祭りにできたのでは?という思いもたくさんあり、来年は笑顔がもっともっとあふれるように繋げて行きたいと思います。

四国ブロックは、他のブロックに比べるとまだまだ、ヒヨコですが、どんどん他のブロックに追いつけるように今後も意欲的に活動していきたいです。

報告：四国ブロックリーダー 瞳保育所 飯原 有紀子

京都ブロック

今年度JBF京都では、

- ①「発達障がいに関する意見交換会」
 - ②「給食に関する意見交換会」
 - ③「JBF京都全体交流会（JBF京都大作戦 2013）」
 - ④「豊島研修」「長島愛生園研修」
- の4つの活動を主に行なってきました。

①「発達障がいに関する意見交換会」

春秋行なわれる「巡回相談」後の意見交換の他、講演会を2回企画しました。1回目は、「自閉症児の保護者」の立場から、今村裕子さんにお話して頂きました。

保護者に初めて「障がい」という言葉を伝えるのが、保育者の場合もあります。「何を慎重に、何処を丁寧に伝える

べきなのか？また、保育者としてどういう視点をもってかわるべきか？」と言った所をととても分かりやすくお話して頂きました。

2回目は、洛西愛育園の高木恵子先生にお話して頂く予定です。

②「給食に関する意見交換会」

前年度に引き続き、調理職員を中心に、各園の給食関係の基本情報・日報・月報・メニュー・レシピ等の情報交換や、(火元になる可能性が高い所でもあるので)避難訓練について、給食日より、各園の給食室の見学などを行ないました。今年度は、新たに「八幡ぶどうの木保育園」で毎年行なわれている「ダンボールオープン」を京都ブロックの調理職員で実践してみようといった企画や、「給食日より」を京都ブロック合同でつくる企画も進行中です。

③「JBF京都全体交流会（JBF京都大作戦 2013）」

全体交流会は11月を予定していますが、職員同士が日頃の悩みを分かち合い、横のつながりを持つ、よい機会を与えられていると感じています。

④「豊島研修」「長島愛生園研修」

これらの研修を通じて、「豊島」や「ハンセン病」と、「賀川豊彦・イエス団」との繋がりを知り、今の私たちにできることを考えながら、JBF・イエス団全体で、長期的な視点をもって、今後も関わっていきたいと考えています。



(写真は、「給食に関する意見交換会」の1コマです。普段意見を共有できる時間が少ない分、様々な意見が飛び交います。)

報告：京都ブロックリーダー

障がい児・者ホームヘルプ事業『ゆうりん』 森 拓平

兵庫ブロック

『J.B. フェローズ』という形でブロック毎に活動を始めて3年目の今年度は、これまでのつながりをさらに深めていくことを目標に、活動しています。JB担当者も新メン

パーを数名迎え、この出会いがまた、JB 兵庫の大きな力になることを感じているところです。

① 交流会の開催

去る 9 月 28 日（土）に開催しました。ブロック内での交流会 2 回目となる今年のテーマは『つながる・共有する』。まずは、これまでのアンケート等からご意見の多かった「何かスポーツを取り入れてほしい」という声にお応えし、昼間にボウリング大会を行いました（参加者 37 名、会場は神戸ボウリング倶楽部）。初めての試みでしたので、2 ゲーム・個人対抗戦にしたのですが、あちこちから歓声があがったり、ハイタッチする姿が見られたりで、相当な盛り上がりでした！結果発表は夜の親睦会内で行いましたが、1 位～3 位の表彰並びにブービー賞の贈呈まで、その楽しい雰囲気が続いていました。また、各自の成績も、参加者全員が確認しにきた（！）ところを見ますと、想像以上に楽しんでいただけたことが伝わり、今後何かしら是非取り入れていきたいと思いました。

本編の方は、今年も 18 時から賀川記念館で開催しました（参加者 100 名）。昨年同様、グループをあらかじめ分けておきました（基準は、①なるべく同じ施設の職員が重ならない ②同じぐらいの経験年数の方同士が一緒になる）。

プログラム第 1 部は、グループワーク。

各グループ内でまずは自己紹介しました。今回はその中に「私ってこう見えて実は…」ということを一言付けていただきました。次に、「仕事で嬉しかったこと・逆につまんでいること」をお互いに発言し、共感したり、アドバイスをいただくことで自分を見つめ直したり発見したりする有意義な時間となりました。

第 2 部は親睦会。

昨年の経験があるので、今年はどのグループも最初から話はずんでいく雰囲気が感じられ、また一つ、つながりが深まったのではないかと思います。

今回も途中でクイズ・ジャンケン大会があり、各グループ、チームワークの良さを発揮していました！

この日半日を通して、今年のテーマどおり、「つながり」をいっそう感じることの出来た会になりました！

② 施設訪問研修

今年度は、6 月 27 日（木）杉の子保育園で行われました。兵庫ブロックでは唯一の院内保育所ということで、通常とは多少異なった状況下で子どもを受け入れなければならないこともある中、子ども達のために少しでもよい条件で保育をしようと、一生懸命取り組んでおられる姿がとても印象的でした。

③ 東日本大震災 復興支援パーカーの製作・販売

昨年度は T シャツを販売しまして、販売総数は 1000 枚を超え、現地の作業所の方々からも喜びの声をいただきました。これもひとえに、この企画にご理解・ご協力下さった皆様のおかげです。ありがとうございます！

当初より『息の長い支援』を目指しておりまして、

今年度は第 2 弾として、先にご案内しておりますように、長袖パーカーを製作いたしました。この誌面が発行される頃には、販売が始まっていると思います。また皆様のお力添えを何卒よろしくお願いいたします。

④ 豊島との関わり

昨年度、夏祭りのお誘いを受けながら、どの施設からも参加出来なかったのも、「今年こそは！」の思いで、年度当初から参加出来るよう調整していました。



また今年度は、瞳保育所への応援要請もあり、兵庫ブロックからもたくさんの保育士が関わる機会を与えられました。出かけた保育士一人一人が、この出会い・経験を大切に帰ってきました。これからは、私達はつながっていて、さらにそれが広がり、深まっていくことを期待しています。

報告：兵庫ブロックリーダー 一麦保育園 小関里美

大阪ブロック

2013 年度の大阪ブロックの活動は

- ①各施設を訪問し理解を深める
- ②職員通信を発行してつながりを深める
- ③タオル販売を通して震災復興支援を継続する。

この 3 点を中心に進めてまいりました。

① 施設訪問

* 愛之園保育園公開保育「磯遊び」5 月 24 日（金）

大阪ブロック 3 名、兵庫ブロック 3 名の参加
3～5 歳児の「磯遊び」異年齢での取り組みで、貴重な自然体験を子どもたちと共に行うことができました。地震津波対策の意見交換や地域子育て支援センターでの手作り玩具製作体験などを学び、交流を深めることができました。

* ガーデンエルロイ「CSP セカンドステップ体験学習」
8 月 31 日（土）

大阪ブロック 4 名の参加
1～3 歳の縦割りのホームにて体験学習をさせて頂きました。ゆったりと部屋で遊んだり、お風呂の様子

を見学したり、保育園とは違う「生活の雰囲気」を感じることができ、良き学びの時となりました。

* 豊島3施設合同夏祭り 7月13日(土)

ガーデン天使5名参加

四国・京都・兵庫・大阪ブロックが協力し、夏祭りの準備やイベントのお手伝いさせて頂きました。協力しあって開催できた事、利用者や子どもたちの笑顔につつまれた事は、本当に良かったです。どの回も、施設の取り組みや特色、地域性など刺激を受け合うものとなりました。それぞれ体験できたことを各施設に持ち帰り試していくようにしています。

② 職員通信第6号発行(9月中旬)

内容は①公開保育についての報告「愛之園保育園・天使保育園・ガーデンエルロイ」②保育園紹介「聖浄保育園・馬見労務保育園」③豊島報告「ガーデン天使」④キリスト教のQ&A「大阪四貴島教会」。それぞれ体験したことを報告し、各施設の取り組みなどを共有しています。

③ オリジナルタオル製作について

昨年から大阪ブロックとして震災支援を継続的にしていきたいという思いを再確認し、皆で持ち寄った案・デザインを基にタオルを作製し販売していくことを決めました。現在はタオルのデザインが決まり、業者に発注する段階です。品物ができ次第、イエス団各施設の協力を得て販売したいと計画しています。

収益をイエス団の震災復興活動資金として募金できればと思っていますので、ご協力宜しくおねがいいたします。



写真は施設訪問した愛之園保育園の磯遊びに出かける様子
報告：大阪ブロックリーダー 天使保育園 石田和哉

16号 編集後記

東日本大震災から1000日が経過した2013年12月5日現在、行方不明者2,651名、避難者277,609名。復興速度は決して速いとは言えません。東京電力福島第一原発事故との戦いもお続いています。心身ともに厳しい生活を強いられ、人生や生活の先が見えない状況の中におかれている多くの方々に覚えます。どうか、神様の励ましと慰めがありますようにお祈りをいたします。クリスマスは、原文直訳すると「神が人に到着された」出来事。創設者「賀川豊彦」が、余命いくばくかの宣言を受けながら21歳の若さで、12月24日に自らをクリスマスプレゼントとして身を投じセツルメント運動を始めたことと通じるものがあります。私たちイエス団は、「賀川豊彦」の精神を受け継いでいきます。

今年も多くの方々に支えられ祈られて歴史を刻んできたこの創立記念日(12月24日)にイエス団報第16号を発行することができました。イエス団に連なる皆さんのご理解とご協力に感謝を申し上げます。

表紙写真の解説

編集委員会では、MS2009の実践の写真を全施設に向けて募集しています。



写真No.

コメント

- | | |
|---|---|
| 1 | ブラッシュアップ研修会の開会礼拝にて、黒田理事長の奨励 六甲YMCA グリーンチャペルにて |
| 2 | リーダーシップ養成研修会にて、京都東九条地区でのフィールドワークの一コマ 高瀬川周辺 |
| 3 | ドイツの各福祉関係者7名が来所。見学後、ガーデンエル職員と意見交換をしました。国による文化や事情の違いを超え、虐待から児童を守っていくミッションの大切さを確認しました。 ガーデンエルロイ |
| 4 | 保護者によるケニアの民族音楽ミニコンサートを開催しました。 くずは光の子保育園 |
| 5 | 全園児で津波を想定した避難訓練をしました。3歳以上児は県支給の救命胴衣を実際に着用して避難しました。 愛之園保育園 |
| 6 | 砂遊びの一コマ 甲子園二葉幼稚園 |
| 7 | J.B.フェローズによる、ハンセン病を考える研修 長島愛生園を訪問し、近隣を清掃奉仕しました。 |
| 8 | 同上:回収したごみ |
| 9 | 賀川先生もこよなく愛した武庫川のほとりにて 年長児が遊びに出かけました。 甲子園二葉幼稚園 |